「一喜一憂」

私は若い時（２０才）に急性腎炎になり
当時は腎臓の治療薬がないので「絶対安静」という時代だったので
長らく大学を休んで自宅療養したことがある。

大学から、ともかく語学だけは単位を取るようにと言われたので
英語と独逸語の単位を取るために父に運転してもらって何とか取得し
無事に4年間で卒業できた。

従って、この時のトラウマが今でもある。

当時は尿タンパクの数値だけだったが、
２＋や1＋などと一喜一憂したのだ。

しかし、2年3年と病気だったのでゼミも殆ど出席できず
やっと4年になって普通に通学できるようになった具合だった。

運よく理学部が有料講座「コンピュータ入門」を6千円で開講してくれて
当時の初任給は4万円程度だったので結構な受講料だったが
母が出してくれて1カ月のコースを受けた。

6月だったので、講義の終わりに講師が
「夏休みにコンピュータを使いに来てもよい」
と言ってくれたので
「シミュレーション」のプログラムを作りに通った。

FORTRAN という言語で正規分布とポワソン分布の乱数表を利用して
販売と在庫をシミュレーションするシンプルな物だったが
当時のコンピュータの CPU はコアという時代で２５６KB という物で
乱数はテープリーダーで随時読み込み「値」を得て進める
という今から思うと厄介なものだった。

乱数表は富士通が作ってくれたという話で
ともかく夏休みの間にプログラムを実行させることが出来たのだ。

これを卒業論文の資料にしたが、
当時は、コンピュータの黎明期でＮＨＫがコンピュータ講座でＦＯＲＴＲＡＮを
電電公社のドレスというサービスを利用して行っていた
という状況だった。

ゼミはＯＲ（オペレーション・リサーチ）だったので
担任の西治先生のアドバイスでコンピュータ・シミュレーションをテーマに
販売はポワソン乱数、仕入は正規分布の乱数を軸に
１日を1サイクルとして３６５回繰り返すものだった。

これを就職内定先のトヨタ系販売店にコピーを提出して
私の先進性をアピールしたのだ。

何故なら、理学部の講座は有料であり、しかも6千円もして、
当時、初任給が4万円程だったので相当な金額だったのだ。

そして、就職して念願のコンピュータを担当するようになったが、
当初はバッチ処理のシステムだが、
コーディング用紙にプログラムをコーディングしディスケットにパンチして
コンピュータに読み込ましコンパイルする
という流れだった。

業務処理だが殆どは伝票入力して統計表を作成することだった。

しかし、コンピュータがドンドン発達してオンライン処理が可能になり
業務の発生元で入力して伝票を発行するようになり、
ようやく、コンピュータの本来的な活用になった。

この頃になると腎臓を患っていることを忘れる位に仕事に集中できた。

好きだったゴルフを再開して、
一人前に会員権を買って半年でオフィシャルハンディが１９迄になり
３７、４２で８０を切るようになりクラブの大会でも上位になったが、
この事を故福井社長に話すと
「サラリーマンのゴルフではない」
と言われたのと

同時期に父が脊椎に腫瘍が出来て手術を受けるという事態になり
ゴルフから遠のいたのだった。

腎臓を患っている事を忘れる程によくなったが、
反面、父の病気という風に逆風も吹いたのだった。

「一喜一憂」というが、今は腎性貧血と言われて治療を受けており
腎臓の数値eGfr値の推移に追われている。

ホンマに小さな数値の変動に毎回「一喜一憂」という状況。

今は、さらに、気候の急変で「血圧」の数値が加わり
朝晩、計測しては「一喜一憂」という状況を繰り返している。

何でも「老化」と片づければそれまでだが、
体調の変化に「一喜一憂」しながら、何とか悪くならないように
気分の面からも明るく保って行きたいと思っている。